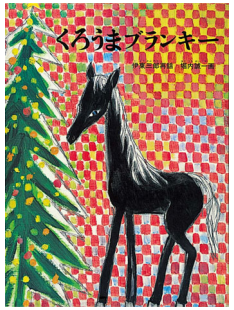
あかね文庫お話しの会　おひさまだより

えほんの紹介

『 くろうまブランキー 』

伊東三郎　再話　　堀内誠一　画　　福音館書店



まっくろなこうまの名はブランキーです。ブランキーは主人の家をつくるために、大きな石をつんだ重い荷車をはこんで働いています。でも、ブランキーの住む小屋はありません。やがて年をとったブランキーは、重い荷物をはこぶことができず、主人に力いっぱいたたかれ、道に倒れてしまいました。

その夜はクリスマスのばんでした。天からおりてきたサンタクロースが、倒れているこうまをみつけ首をなでてやると……！その後、ブランキーはサンタのそりをひいて天の道を走ります。サンタのそばで眠るブランキーの安心した顔に心温まります。

柔らかな色合いの絵がお話を優しく伝えています。

クリスマスには何かふしぎなことがありそうです。メリー・クリスマス！

『 くまのコールテンくん 』

ドン・フリーマン　作

まつおかきょうこ　訳　偕成社

コールテンはくまのぬいぐるみです。

デパートのおもちゃ売り場で早く自分を買ってくれる人がこないかと待っていました。

ある日、おかあさんと買い物にきた女の子のリサは、一目でコールテンが大好きになりましたが、おかあさんに「もうお金をたくさん使ったし、つりひものボタンがとれてるわ。」といわれ、買わずに帰っていきました。

その晩コールテンはボタンを探しに歩きまわりましたが、どこにも見つかりません。でも、次の朝きのうの女の子が自分の貯金箱のお金をもって買いにきてくれたのです。リサにだきしめられたコールテンのなんと幸せにあふれた顔！そのよろこびが子どもにも伝わってきます。作者のあたたかいまなざしが感じられます。

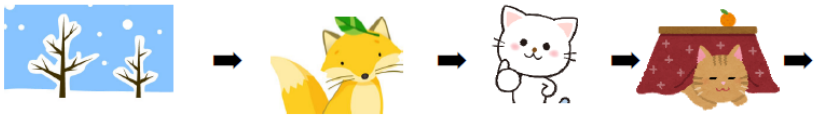
小さなおともだち　“なんで、おじいちゃん？”

Hちゃんの今日の付き添いはおばあちゃんです。

でも、Hちゃんはおばあちゃんを呼ぶ時、いつも「おじいちゃん」と呼んでいます。ふしぎですね。おぼえる時になぜかそうなったようです。

おばあちゃんは「外出先でもそう呼ばれるので、ちょっと恥ずかしいんです。」と言っています。そのために、一時退院の時、ママとおねえちゃんはHちゃんが「おじいちゃん」といったら、すかさず 「おばあちゃんだよ」と何度も教えてあげる作戦をたてて実行しました。そのおかげでようやく今はちゃんと「おばあちゃん」と呼びかけられるようになりました。よかったですね。

絵のしりとりあそび



○○　○○○　○○　○○○

○○ー　○○　○○　○○○○

○○○うりの○○○じょ　（アンデルセンの童話）

（答え）ゆき、きつね、ねこ、こたつ、ツリー、リス、すし、しろくま、マッチうりのしょうじょ

季節のわらべうた

♪町から大根こうてきて
手足をしばって　塩ふって
ごしごし　ごしごし　よくもんで
ないたら　うえから　ちょんぎって
おいしいとこから　もぐもぐもぐもぐ…

大根漬けの歌です。日常の人の暮らしの健やかさが感じられます。子どもを大根に見たてて横に寝かせ、なでたり、もんだり、手で切るまねをしたり、最後に体中をくすぐります。